

1995

SHORINJI KEMPO



NATIONAL DEFENSE ACADEMY

部誌・OB会報
NO22

1995

SHORINJI KEMPO



NATIONAL DEFENSE ACADEMY

部誌・OB会報
NO22

1995

SHORINJI KEMPO



NATIONAL DEFENSE ACADEMY

部誌・OB会報
NO22

目 次

部

誌

- 1 部長挨拶 教授（応用化学） 菅 野 等
- 2 学生寄稿
- | | | | |
|-----|----|----|----|
| 40期 | 主将 | 上野 | 洋介 |
| 40期 | 副将 | 守井 | 孝志 |
| 41期 | 主将 | 後藤 | 仁志 |
| 41期 | 副将 | 中江 | 宏彰 |
| 42期 | | 土本 | 邦義 |
| 42期 | | 古賀 | 信之 |
| 43期 | | 江畑 | 泰孝 |
| 43期 | | 梅原 | 航 |
- 3 平成7年度 活動成果報告
- 4 部長・顧問・41期幹部名簿
- 5 部員名簿
- 6 平成8年度年間計画

奥平会報

- 1 巻頭言 奥平会会長 上杉和壽
- 2 平成7年度奥平会活動概要
- (1) 現役部員に対する支援
 - (2) 総会の実施
 - (3) 平成7年度会計報告
 - (4) 連絡事項
 - (5) 奥平会名簿

ご挨拶

部長 菅野 等

合 掌

全国のOB諸兄におかれましては良いお年をお迎えの事とお祝い申し上げます。昨年は1月の阪神大震災、3月のサリン事件や異常な円高など日本が大きな困難に直面することが多かった一年でした。しかし、一方では国の危機的状態においては、自衛隊の支援や出動がいかに重要であるかの理解が今までよりは進んだ年でもあったように思われます。地道な努力が次第に国民の理解を得て、正当に評価されるようになるのは当然とはいえ、今までの状態を考えると、まだまだ正常な評価までの距離は遠いと言わざるを得ないように思われます。

我らが防大少林寺拳法部に目を転じますと、昨年は上野君を主将として良く頑張り、全日本学生大会において団体演武は8連破を達成することができました。最近、各種目とも最優秀の大学が毎年変わり、連破をすることが非常に難しくなっておりますが、部員がよく修練し息の合った演武により連破を続けていることは大いに誇って良いことと思われます。

昨年のもう一つの特記事項として、前部長の丸川防衛大学名誉教授が秋の叙勲において、勲三等を受章されたことがあげられます。新聞紙上で既にご存じの方も多いとは思いますが、改めてOB諸兄にお知らせして、丸川先生にお祝い申し上げます。

今、後藤君が主将になり、尾崎3佐の監督のもと技の練習に励んでおります。最近部員数が減ってきているなど問題点はありますが、後輩は頑張っておりますので、今年も暖かいご支援とご指導をお願い申し上げます。

結 手

「政権を振り返り」

40期 主将 上野 洋介

合 掌

防大少林寺拳法部も31年の伝統を築き、益々の活気を帯びてまいりました。我々40期が、31年目を担当し、全日本学生大会をもってその任務を終了することができました。政権を担当した1年間は、我が部の伝統というプレッシャーの中、部の運営に東奔西走し、後輩の指導に試行錯誤し、本当に多忙な毎日でした。40期生全員が悩み、意見を交わし合い、努力した結果は、関東、全日本、そして全国の各大会で発揮できたことと思います。

さて、私がこの場を借りて後輩達と考えたいことは、「伝統を伝えるとは？」とすることです。私たちのクラブで言う伝統とは、各種大会で良い成績を修めることでしょうか。過去の政権運営を模倣することでしょうか。私は、伝統という言葉の本質的な意味は、そんな上辺だけの所にあるのではないと思います。31年の歴史は、成績が全てではありません。伝統を伝えるとすることは、先輩達の持っていた志、それを伝えていくことにあると思います。その志とは何か、各期が真剣に悩み、模索し、答えを見つけること、そして自分たちの表現方法で後輩達に伝えて行くこと、そこに我が部の伝統が存在し、誇りがあるのだと思います。単なる過去の模倣ではない、成績のみを求めるでもない、自分たちの個性を出した、すばらしい政権を築き、先輩達の意を組んだ新しい伝統を各期が築いて行けることを祈念します。

最後に、師範、部長をはじめ監督、顧問の方々に感謝するとともに、これからも益々の御支援、御指導を賜りますよう宜しくお願いいたします。

結 手

「新政権を迎えて」

41期 主将 後藤 仁志

合 掌

我々41期が、少林寺拳法部に入部し3年が経ち、早くも政権を譲り受けることとなりました。我々41期は、諸先輩方の努力と精進によって得られた各大会における栄光と成績を伝統として受け継ぎ、更に発展させるため全力を尽くす所存であります。

現在我が部は、全日本学生大会8連覇と言う素晴らしい成績を修めています。しかし、部員数は、数年前に比べると、かなり減って来ており、部員の確保が深刻な問題となっています。そのため、今年は、部員勧誘に力を入れ、部を盛り上げて行こうと考えております。

何とぞ、今後とも、諸先輩方の厚い御支援・御指導の程宜しくお願い申し上げます。

結 手

「4年間を振り返って」

40期 副将 守井 孝志

合 掌

私は、4年間少林寺拳法をやったことを誇りに思います。これは私だけではなく、4年間を無事乗り越えてきた同期、諸先輩方も同様に思われたに違いありません。防大において少林寺拳法部は、それ程ステータスのある部です。昨今、厳しいクラブや上から強制される様なクラブは敬遠されがちで、また、スポーツは楽しくやらねば意味がないと言う風潮もあります。確かにそのような考え方も納得できます。自ら進んで考える様になれば当然上達は早くなるし、楽しい練習で上達するならば、2時間を楽しく過ごすに越したことはないと思います。しかし、私が欲したのは、そのようなクラブでなく、実際少林寺拳法は、はっきり言ってそのようなクラブではありませんでした。練習の2時間は楽しいどころか苦痛な時間でしたが、練習が終わった後は喜びが湧いて来ました。その喜びとは、苦痛から逃れた喜びではなく、何かを達成した喜びでした。1・2年と経過してその喜びの気持ちを実感すると、向上心が芽生えてくるのがわかりました。厳しい練習に向上心が芽生えてくると、クラブの時間は苦痛ではなく、非常に充実したものになりました。練習中は、きつくとも、終われば微笑むことができるのです。

私が、1つ残念に思うことは、クラブ全体が入賞に非常に執着していることです。そのため、演舞にこだわりすぎ、反面、本当に使える武道、力愛不二を実践するに足る練習がなおざりになってしまっていることです。人格と格闘力を磨くことに武道の意味があるのではないだろうか。少林寺拳法部員は、真の価値を見出して欲しい。

結 手

「新政権を迎えて」

41期 副将 中江 宏彰

合 掌

41期が少林寺拳法部に入部し、早3年の月日が経ちました。幸い我々41期は、部員が多く、仕事を分担することができ、部の運営は、順調です。しかし、残念なことに、42期及び43期と年々部員が減りつつありますので、今年は、部員勧誘に力を注ぎ、部を活気づけると共に、後輩には防大少林寺拳法部の部員で良かったと心の底から思えるような政権にしていこうと思います。先輩の方々が築いて下さった礎を受け継ぎ、防大少林寺拳法部の伝統に恥じる事のないように、今後は後輩指導に全力を尽くす所存でありますので、何とぞ倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結 手

「2学年を終えるに当たって」

42期 土本 邦義

合 掌

時が経つのは大変早いもので、私が少林寺拳法部へ入部して2年が過ぎようとしています。思えばこの2年間に様々な事がありました。また、全日本大会等の大きな大会へも出場させていただきました。前年度の好結果に味をしめ、関東学生大会では、少々有頂天気味だったためか予選敗退と言う最悪の事態に陥ってしまいました。そのときの屈辱・挫折感は、我が生涯において決して忘れることができないと思います。

その後も、2年係の方等諸先輩の熱心な指導を受け、再び全日本大会へ出場する機会をいただきました。が、しかし、本大会においても結果は奮わず、再び悔し涙を飲むことになりました。結果を出せなかった自分が情けなく、諸先輩の指導を無にしてしまった自分のふがい無さを実感させられました。「勝つことが全てではない。」と励まされたこともあります。やはり勝たなければ意味がありません。

これからは、この悔しさをバネに次なる目標である団演に向けて、基本を重視して日々精進に励んでいこうと思います。42期は、10名と少数ですが、共に助け合い、団演9連覇を目指し、防大少林寺拳法部の中堅を担う42期の一員として努力を重ねていこうと思います。

最後に、今まで指導して下さいました39期・40期の先輩方へ厚くお礼申し上げます。

結手

「2学年を終えるに当たって」

42期 古賀 信之

合 掌

今振り返ると早いもので、少林寺拳法部へ入部して早、2年が過ぎようとしています。我々42期は10名と少数ですが、互いに励まし合い、助け合い、厳しい練習を乗り越え、何とか黒帯も手にすることができました。また、炎天下での夏合宿などは、昨日のように思い出されます。

5月に関東学生大会、10月に全日本学生大会と、ともに出場させて頂きましたが、両大会とも、成果を上げることができず、親身に指導して頂いた諸先輩方に申し訳ないと思う一方、心のどこかに「おごり」があったのではないかと自らを戒め日々精進して行こうと思っている次第です。

我々42期は、黒帯を手にはしましたが、まだまだ未熟です。この悔しさを生かし、もう一度基本を見直し、更なる努力、精進を重ね、今後は、41期の先輩の方々の熱心な指導の下に、その指導の全てを吸収するつもりで日々の練習を大切に、また、真剣に取り組んでいき、来年は、「団演優勝」を手にしたいと思います。

最後に我々42期を熱心に指導して下さいました40期の諸先輩方へ厚く御礼申し上げます。

結 手

「全日本大会に参加して」

43期 江畑 泰孝

合 掌

私は、小林寺拳法部に入部して約半年後の10月中旬、日本武道館において行われた全日本大会に段外の部で出場しました。結果から言って、決勝へ進出することができず、入賞することができませんでした。中期が始まって、大会前日まで来る日も来る日も演舞の練習に明け暮れたことを思い出すと、今でも悔しさが込み上げてきます。

この経験は、私にとって大きな教訓を与えてくれました。それは、技術的な練度不足はもちろんの事、内面的な未熟さに気がついたことです。今まで技と言うものは、受け身の姿勢で常に教えられると言うものでした。しかし、それでは、本当の技の向上は、期待できないのです。自らの積極的な姿勢をもって学び取ることであり、真の技の向上があると思います。

これからは、この教訓を生かして、自ら技を学び取る姿勢をもって内面的な向上を目指し、基本技術の修得に力を入れ、練習に取り組んで行こうと思いますので、今後ともご指導宜しくお願いいたします。

結 手

「全日本大会に参加して」

43期 梅原 航

合 掌

私は、10月14日、日本武道館で行われました全日本学生大会に出場することができました。

武道館では、ウォーミングアップのため軽く駆け足をして汗を流し、技を確認しながら演舞練習を繰り返して、本番へ向け万全の準備を整えました。上級生の方から予選を通過して決勝へ進出できると期待されていましたが、実際、他の組が練習しているのを見て、自分自身そう確信していました。期待と不安が入り交じりながら本番を終え、結果発表を聞きましたところ、意外にも予選落ちでした。今までの練習は、何だったのだろうと非常に悔しい思いをすると共に、自分自身の心の中に生じた慢心というものに気がつきました。

これからは、この経験を生かして、新たな気持ちで練習に励み、来年は、良い結果が出せるように精一杯努力していきたいと思いますので、今後ともご指導の程、よろしく申し上げます。

結手

平成7年度成果報告

1 関東学生大会 (平成7年5月4日;日本武道館)

少拳士の部	最優秀賞	112 (4)	小坂 淳	311 (4)	熊本 巖
中拳士の部	敢闘賞	123 (4)	上野 洋介	311 (4)	守井 孝志
男子二人掛の部	敢闘賞	141 (4)	山田 賢治	142 (3)	川崎 英輔
		341 (3)	綿貫 俊一		
団体演舞の部	優秀賞	121 (3)	吉村 祐樹	131 (3)	島の江英毅
		132 (3)	三宅 英明	133 (3)	片上 祐文
		313 (3)	大川 洋史	331 (3)	小林 貴
		413 (3)	佐久間 博	413 (3)	レイ・グ・ハンデス
		421 (3)	中江 宏彰	422 (3)	黒田 彰
		432 (3)	小段 雄三	441 (3)	後藤 仁志

2 全日本学生大会の部 (平成7年10月14日;日本武道館)

少拳士の部	敢闘賞	112 (4)	小坂 淳	311 (4)	熊本 巖
中拳士の部	優良賞	123 (4)	上野 洋介	311 (4)	守井 孝志
男女混合の部	敢闘賞	242 (1)	田村 育子	433 (1)	廣瀬 繁
男子二人掛の部	優秀賞	141 (4)	山田 賢治	142 (3)	川崎 英輔
		341 (3)	綿貫 俊一		
団体演舞の部	最優秀賞	121 (3)	吉村 祐樹	131 (3)	島の江英毅
		132 (3)	三宅 英明	222 (2)	清水 優
		313 (3)	大川 洋史	413 (3)	佐久間 博
		413 (3)	レイ・グ・ハンデス	421 (3)	中江 宏彰
		423 (3)	建部 広喜	431 (3)	石井 伸幸
		432 (3)	小段 雄三	441 (3)	後藤 仁志

3 全国大会 (平成7年11月3日;福岡ドーム)

中拳士の部	優秀賞	123 (4)	上野 洋介	311 (4)	守井 孝志
団体演舞の部	披露演武	121 (3)	吉村 祐樹	131 (3)	島の江英毅
		132 (3)	三宅 英明	222 (3)	清水 優
		313 (3)	大川 洋史	413 (3)	佐久間 博
		413 (3)	レイ・グ・ハンデス	421 (3)	中江 宏彰
		423 (3)	建部 広喜	431 (3)	石井 伸幸
		432 (3)	小段 雄三	441 (3)	後藤 仁志

4 横須賀市民大会 (平成7年11月26日;少年工科学校)

段外の部	3位	122 (1)	與藤 公彦	341 (1)	森脇 竜二
初・二段の部	3位	132 (2)	葛西 成彦	211 (2)	尾崎 公彦
中拳士の部	3位	121 (3)	阿達 文明	232 (4)	高田 善行
男女混合の部	優勝	421 (3)	中江 宏彰	242 (1)	田村 育子

5 全自衛隊大会 (平成8年3月7日;空自入間基地)

参加予定

平成7年度防衛大少林寺拳法部

1 部長 - 顧問

部長 菅野 等 (教授)

師範 田村 倉蔵

神田 憲和

頼富 英武

監督 尾崎 信朗 (25F)

顧問 佐々木 二郎 (16A)

平原 誠 (18N)

財城 昭彦 (22A)

五領 隆男 (27N)

山田 顕嗣 (28F)

顧問 中村 大助 (30A)

松永 康則 (34A)

田中 一要 (34A)

竹内 博忠 (34A)

大西 純児 (35A)

2 第40期

主将 441 (3) 後藤 仁志

副将 421 (3) 中江 宏彰

132 (3) 三宅 英明

統制長 133 (3) 片上 裕文

道場長 423 (3) 建部 広喜

3年係 131 (3) 島の江 英毅

2年係 431 (3) 石井 伸幸

1年係 313 (3) 大川 洋史

訓練係 413 (3) レイ・ゲバンデス

413 (3) 佐久間 博

安全係 121 (3) 吉村 裕樹

222 (2) 清水 優

主務 312 (3) 松下 尚之

113 (3) 和崎 拓己

会計 322 (3) 曾我辺 信久

師範係 432 (3) 小段 雄三

渉外 331 (3) 小林 貴

本山係 112 (2) 寺田 昌弘

OB係 413 (3) 佐久間 博

部 員

40期

小隊	専攻	要員	氏 名
1 1 2	航宇	空	小坂 淳
1 2 3	地球	陸	上野 洋介
1 4 1	航宇	空	山田 賢治
1 4 2	管理	陸	朽木 誠
2 3 2	機械	陸	高田 善行
2 3 2	応物	陸	奈良 一志
2 3 3	機シ	陸	永友 恒知
3 1 1	精機	空	守井 孝志
3 1 1	国関	陸	熊本 巖
4 1 2	電気	陸	岩本 正臣

41期

小隊	専攻	要員	氏 名
1 1 3	応物	空	和崎 拓己
1 2 1	機シ	陸	阿達 文明
1 2 1	機械	陸	吉村 裕樹
1 3 1	機シ	陸	島ノ江英毅
1 3 2	機シ	陸	三宅 英明
1 3 3	材物	陸	片上 裕文
1 4 2	応物	陸	川崎 英輔
3 1 2	通信	空	松下 尚文
3 1 3	通信	海陸	大川 洋史
3 2 2	応化	陸	曾我辺信久
3 3 1	管理	陸	小林 貴
3 4 1	電気	陸	綿貫 俊一
4 1 3	航宇	空	グバンデス
4 1 3	土木	陸	佐久 間博
4 2 1	土木	陸	中江 宏彰
4 2 3	土木	陸	建部 広喜
4 3 1	航宇	陸	石井 伸幸
4 3 2	電子	陸	小段 雄三
4 4 1	地球	陸	後藤 仁志

42期

小隊	専攻	要員	氏 名
1 1 1	数物	陸	清水 辺 大
1 1 2	精機	陸	寺田 昌弘
1 2 2	情報	海陸	平野 仁之
1 3 2	応物	陸	葛西 成彦
1 4 2	国関	陸	永島 透
2 1 1	応化	海陸	尾崎 公彦
2 2 2	管理	陸	清水 優
2 3 1	電気	陸	井田 輝彦
3 2 3	電子	陸	徳永 亘
4 3 1	応物	陸	古賀 信之
4 3 3	機械	海	土本 邦義

43期

小隊	専攻	要員	氏 名
1 2 2	理		山田 孝広
1 2 2	理		與藤 公彦
1 3 1	理		江畑 泰孝
2 3 2	人		梅原 航
2 3 2	人		関 大吾
2 4 2	人		田村 育子
3 1 2	理		藤本 裕介
3 1 1	理		古谷 尚久
3 1 1	理		松口 俊三
3 4 1	理		森脇 竜二
4 1 2	理		斉藤 和伸
4 2 1	理		荒柴 拓也
4 3 1	人		春日 英男
4 3 1	人		作田 雄一
4 3 2	理		小沢 一隆
4 3 3	人		廣瀬 繁

平成8年度少林寺拳法部年間計画

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
区分												
学校行事			18-30 春期休暇	入校式典 春期競技会			夏期定期訓練	夏期休暇	夏期競技会		開校記念祭	冬季競技会 冬季休暇
大会等	30-2/2 兼稽古	4 OB杯 杯会	7 全自 春合宿		関東学生	新歓 昇段審査		夏合宿 本山合宿		全日本 政權交代		
4学年	演武期間	O B 杯	春 合宿	演武期間	関東学生大会	基 本	昇段審査	夏 合宿	演武期間	全日本学生大会	政權交代	
3学年												
2学年												
1学年												基 本

奧平會報



巻頭言

奥平会会長 上杉和壽

合 掌

奥平会会員の皆様におかれましては、益々ご壮健にて各方面でご活躍のことと
思います。

昨年は、自衛隊にとって正月気分が未だ醒めやらない内での阪神・淡路大震災、
引き続く地下鉄サリン事件をはじめとする一連のオウム事件への対応に始まり、
防衛計画の大綱の見直しによる新たな防衛戦略の構築と新中期防衛計画の策定等
の自衛隊の近未来の方向付け作業の完成に終わった、まさしく戦後50年を凝縮
するような慌ただしい年でした。

その中でも私が感銘を受けたのは、暴動が起こっても不思議ではないあの阪神
・淡路大震災における混乱の中での被災者の冷静な行動と、災害派遣に当たった
自衛官の涙ぐましい献身的な行動です。

前者について、あの混乱の中、関東大震災で起こった忌まわしい暴動が再現
されるのではと危惧した人も合ったと思いますが、被災者が身勝手な行動を避け、
救援物資を並んで受け取ったり、避難場所の生活規律を自ら定める等、お互いに
譲り合い・助け合ってあの混乱を乗り切ったことは、世界の人々の矚目と賞賛を
得ることとなり、私は日本人として日本人を誇らしく思ったものです。

後者について、一部マスコミ報道で自衛隊の派遣時期の遅れが宣伝され、また
自衛隊に対する住民感情が決して良くない地域への派遣で、隊員個々にとっては
やりずらかったと思いますが、隊員自らが被災者でありながら家族をほっぽりだ
しての長期派遣、被災者を心から気遣っての自らの食事・休憩・仮眠の制限等の
地道・真摯な派遣活動状況等が理解されるに及び、私は自衛官として派遣自衛官
を誇らしく思ったものです。

これらのことを通じ、とかくこれまで国民と遊離した存在として誤解されがち
であった自衛隊が、真に国民と一体となって国民の生命と財産を守るために在る
ものだということが今まで以上に広く一般に理解されるようになってきたと思いま
す。

奥平会会員の皆様には何らかの形で直接的あるいは間接的にこれらに関わって
きたと思います。本当にご苦労さまでした。

戦後50年のしがらみは昨年で一結節を終え、今年からは新たなスタートの年、
十二支の初年です。2月には早速گران高原へのPKO部隊の派遣もあります。

本年も、自衛隊にとってまた奥平会会員の皆様にとって佳き年になるよう願っ
ております。

結手

平成7年度奥平会活動概要

1 現役部員に対する支援

春季・夏季合宿、関東・全日本学生大会、全国大会等に対し支援を実施致しました。また、ご多忙中にも係わらず、多数のOBの皆様が大会等の応援に駆けつけてくださいました。誠に有難うございます。来年度につきましてもできる限り大会の予定を御連絡いたしますので、応援の程よろしくお願い致します。

2 総会の実施

本年度11月12日、防大におきまして、紫村2佐始め会員の皆様の御出席を頂き、開催することができました。

なお本総会におきまして「OB会費の減少に伴う支援金の要請」について決議いたしました。

3 平成7年度会計報告

別項の通り報告します。

4 連絡事項

(1) 会員名簿の更新について

会員名簿につきまして所属等不明者は、空欄にしております。本人若しくはその所属等を知っておられる方、また記載内容の間違い等にお気づきの点がございましたら期連絡担当者または防大本部庶務まで御連絡下さい。

なお、所属等不明者には部誌を発送しておりません。

(2) 期連絡網について

期連絡網について別項のように設置していますので、会員の皆様におかれまして住所の変更等ありましたら期連絡担当者まで御連絡をお願いします。

(3) 本部連絡先

防衛大学校43中隊 1等陸尉 中村大助(庶務)

TEL 専用線 8-40-2643

局線 0468-41-3810

(4) 平成7年度奥平会本部 (永富佳吉(統率室))

会長	15A	上杉和壽(陸尉2561)	幹事	28F	山田顕嗣(防大2731)
副会長	16A	佐々木二郎(防大2100)	〃	30A	中村大助(庶務防大2643)
幹事	18N	平原誠(防大2563)	〃	34A	松永康則(会計防大2612)
〃	22A	財城昭彦(防大2710)	〃	34A	竹内博忠(防大2522)
〃	25F	尾崎信朗(監査防大2745)	〃	35A	大西純児(防大3773)
〃	27N	五領隆男(防大2721)	〃	36A	井上勝(防大2281)

(5) その他

会員の慶弔がありましたら、期連絡担当者若しくは防大本部庶務までご本人または近傍の会員の方から御一報頂きますようお願い致します。

5 奥平会名簿

別項の通り御連絡します。

平成7年会計報告

(H7. 1. 1~H7. 12. 31)

収 入		支 出	
1 前年度繰越金	1,738,725	1 平成7年会報発行費	226,430
		2 会員の慶弔に関する費用	7,776
2 40期OB会費 (12名分)	600,000	3 少林寺拳法部への支援	
		(1) 各種大会支援	363,020
		(関東、全日本、全国)	
3 24期出口先輩御厚志	10,000	(2) 各種行事支援	88,000
		(新年会、歓迎会、納会)	
4 全国大会出場祝金 (横須賀ブロックより)	5,000	(3) 技術向上支援	100,000
		(4) その他	12,982
		4 会費等による少林寺拳法部支援 等に対する報償費	7,052
		5 その他	
		(1) 30周年関連(記念品一 木札代)	101,700
		(2) 幹事活動費	130,414
合 計	¥ 2,353,725	合 計	¥ 1,037,374
残高(収入-支出) = ¥ 1,316,351 次会計年度繰越			

期連絡網

1 主旨

奥平会の有効活用と活性化を図るとともに、会員の名簿を効率的に整理する。

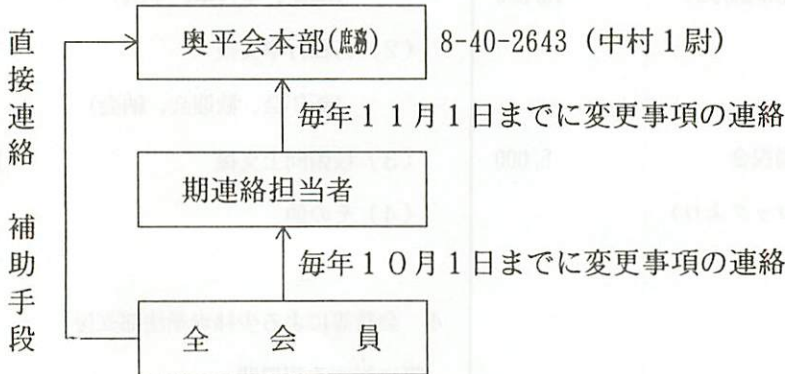
2 連絡の要領

- (1) 各期に1名、連絡担当者を置く。
- (2) 住所・所属等が変更になった場合、各人は毎年10月1日までに同期の連絡担当者
に連絡し、変更事項を告げる。
- (3) 連絡担当者は、年度の変更事項をまとめて毎年11月1日までに奥平会本部（防大
庶務）に連絡する。
- (4) その他、会員の慶弔に関する事項については、各人毎直接または連絡担当者を通じ
て奥平会本部に連絡するものとする。

3 連絡担当者の指名

3年を任期とし、次の担当者を指名する。（継続を妨げない）

4 期連絡網



5 期連絡担当者(H6.6~)

10	10A	蔵田 弘明	市ヶ谷	25	25N	内山 哲也	檜町
11	11A	勝野 建朗	千僧	26	26F	福島 陸	空幕
12	12A	衛藤 利治	南恵庭	27	27F	堀田 隆治	檜町
13	13A	高本 俊之	日本原	28	28A	湯浅 悟郎	新発田
14	14A	清水 重周	東千歳	29	29A	古川 靖人	武山
15	15A	上杉 和壽	檜町	30	30A	福田 洋司	土浦
16	16A	富本 啓一	檜町	31	31N	迫田 浩文	江田島
17	17A	福澤 賢	伊丹	32	32A	福重 毅尚	富士
18	18F	笠原 久	檜町	33	33A	富樫 勇	滝ヶ原
19	19A	前之園敏雄	市ヶ谷	34	34A	竹内 博忠	防大
20	20A	小林 実	富士	35	35A	戒田 重雄	習志野
21	21A	湖崎 隆	檜町	36	36A	藤岡 史生	真駒内
22	22A	松村 利宏	檜町	37	37N	高取 哲朗	下総
23	23A	日高 政広	檜町	38	38A	奇藤 浩	神町
24	24F	中館 利光	千歳	39	39A	中村公多朗	八戸

奥平会名簿

1 名誉会員

職名	氏名	現所属	連絡先	備考
部長	菅野 等	化学教室	〒236横浜市金沢区釜利谷東6丁目34番 1-411 TEL045-786-5877	防大 2401
師範	田村倉蔵		〒187小平市美園町3-27-5 TEL0423-43-0416	
師範	神田憲和		〒272市川市鬼高2-12-5-705	
師範	頼富英武		横須賀市林5-6-11 TEL0468-56-7663	
前部長	丸川武志		〒120足立区小台2-33-2 TEL03-3919-5910	
元校友 会会長	土田國保		〒115東京都北区西が丘1-28-4 TEL03-3900-0409	
元顧問 (OB以外)	奥平正人 (奥平会名簿会長)		〒828豊前市小石原392-3 TEL0979-82-2287	10期～ 4大階指導教官
〃	松木 信			
〃	前原良弘		〒252藤沢市高倉950-5	
〃	松本宏			
〃	宍戸俊之		〒237横須賀市田浦港町24 TEL0468-22-3500	
〃	森田晃一	12 教団 整備群司令		17～19期 指導教官
〃	辻 勇雄	横須賀地方 総監部防衛 部第1室	〒237横須賀市追浜本町2-50 海自室ノ木宿舍123号 TEL0468-66-7150	S51.12～ S54.1 指導教官
〃	今別府政実	富士学校 総研部		S55.3～S57.8 指導教官
〃	富野 博	空幕人計課	〒277千葉県柏市根戸467-103 2-404	H1.3～H3.8 指導教官
〃	米村ゆかり	技術研究本 部(陸付)		研究科28期

2 正会員

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
10A	蔵田 弘明	市ヶ谷	中央調査隊	
10A	黒野 耐	目黒	防衛研究所	
10A	清水 篤男	富士	富士学校企画室長	
10A	松島 順一	富士	富士学校総務部長	
10A	三井 光夫	目黒	防衛研究所	
10N	岡崎 昭一	退職	〒231 横浜市中区本牧原11-1-1103 三浦海岸ハイソ14-1441	
10F	鈴木 勝人	浜松	1 空団	
10F	出田 弘一	芦屋	3 術整備部長	
11A	勝野 建朗	千僧	千僧駐屯地業務隊	
11A	須ヶ崎 了英	目黒	統幕校教育課長	
11A	廣岡 征夫	小平	業務学校	
11A	水野 照夫	用賀	衛生補給処	
11N	佐藤 正秀	鹿屋	第211教育航空隊副長	
11N	渡辺 貞吉	佐世保	解事務取扱副長	
11F	上田 勇作	退職	南国殖産(株)	
11F	坂元 正昭	退職		
11F	清水 正睦	府中	総隊防衛部長	
11F	田谷 俊之	仙台	東北方面総監部	
11F	藤田 尚	目黒	幹部学校	
12A	新井 宏	逝去		
12A	衛藤 利治	南恵庭	3 施設団高級幕僚	
12N	佐藤 備凡	横須賀	護衛艦「きくづき」艦長	
12N	津川 保夫	呉	呉地方総監部管理部援護業務室	
12N	橋田 典幸	呉	1 潜水群幕僚	
12F	田中 紘治	名古屋	調本名古屋支部	
12F	野口 昭徳	目黒	防衛研究所	
13A	石原 薩雄	前川原	幹候校	
13A	白石 克成	朝霞	東方人事部	
13A	高本 俊之	日本原	日本原業務隊	
13A	戸田 勝秋	宇治	関西補給処需品課	
13A	西村 繁樹	目黒	幹部学校付	
13A	益田 修	大久保	7 施設群副長	
13F	松生 剛	那覇	南警隊	
14A	赤瀬 良二	北千歳	第1特科団高級幕僚	
14A	斉藤 正精	退職	日本IBM(株)	
14A	清水 重周	東千歳	第7後方支援連隊長	
14A	清水 直正	静岡	静岡地連	
14A	中原 勇	健軍	西部方面総監部人事部	
14A	原田 敏男	海田市	第13後方支援連隊	
14F	今井 岸男	退職	三陽機器(株)	
14F	高須 好美	退職	高須電気エンジニアリング(株)	
14N	森田 則広	岩国	第31航空群第81航空隊 飛行隊長	
15A	井口 昌	目黒	幹部学校	
15A	上杉 和壽	桧町	陸幕輸送課鉄道船舶班長	
15A	大竹 義信	古河	施設補給処整備部整備管理課長	
15A	岡 隆	武山	第1教育団第104教育大隊長	
15A	長船 敬天	千僧	第3師団司令部総務課長	
15A	奥野 耕三	宇治	関西地区補給処企画室計画幹部	
15A	加藤 三千夫	仙台	東北方面通信群長	
15A	遠田 雅美	明野	航空学校	
15A	土居 良治	帯広	第107地区警務隊長	
15A	野間口 光男	退職	891-01鹿児島県鹿児島市皇徳寺台3-21-8	鹿児島大勤務
15A	花房 晃夫	健軍	西方総監部調査部	
15A	古川 照久	松戸	第2高射特科群	
15A	三嶋 利克	朝霞	東部方面総監部調査部	
15N	今村 修治	佐世保	護衛艦「やまぎり」艦長	
15N	中島 栄一	八戸	2空群首席幕僚	
15N	山下 啓介	退職	〒235 横浜市磯子区森が丘2丁目23の5	
15F	山崎 富雄	呉	第1潜水隊司令	
15F	島田 徹	目黒	幹部学校	
15F	福嶋 健司	府中	総隊航空連絡官	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
15	安村 幸次	退職	東京都世田谷区弦巻3-3-17 A-203	
16A	内山 晃	小平	調査学校	
16A	岡田 正一	大久保	第4施設団本部	
16A	佐々木 二郎	防大	訓練部学生課	
16A	齊藤 健治	小平	業務学校会計教育部	
16A	竹内 準一	岡山	岡山地連	
16A	富本 啓一	桧町	陸幕人事部補任課人事2班長	
16A	平川 真土	仙台	東北方面総監部防衛部	
16A	芦岡 広明	桧町	陸幕防衛部運用課航空運用班長	
16N	阿部 哲夫	船越	誘導武器訓練隊教育部長	
16N	福島 一夫	退職	新生電工(株)営業部	
16F	小笠原 猛	入間	中警団	
16F	八木橋 享	殉職		
17A	荒木 正廣	前川原	幹部候補生学校企画室	
17A	飯島 定雄	市ヶ谷	通信団本部	
17A	小池 保治	遠軽	第25普通科連隊長	
17A	小坂 正志	市ヶ谷	通保監隊	
17A	佐藤 吉信	桧町	陸幕装備部	
17A	鈴木 陽	北千歳	第71戦車連隊長	
17A	高橋 輝正	退職		
17A	富安 久芳	富士	富士教導団本部	
17A	中尾 吉孝	朝霞	東部方面総監部	
17A	廣瀬 誠	留萌	第26普通科連隊長	
17A	福澤 賢	伊丹	中部方面総監部総務部	
17A	村田 芳次	神奈川	神奈川地連	
17A	吉川 雄二	三宿	技術研究本部(陸付)	
17N	塔岡 道夫	江田島	第1術科学校教官	
17N	西嶋 正幹			
17N	久和 清幸	横須賀長浦	第4護衛隊群第41護衛隊しらゆき艦長	
17F	石渡 幹生	桧町	空幕調査1課	
17F	稲見 潔	桧町	空幕補給2班長	
17F	博澤 海	退職	東広島市西条町吉行1-40	
17F	永富 信吉	入間 松町	中空司令部防衛課長 統幕1室	奥平会会長
17F	西岡 義博	小牧	第1輸送航空隊監理部長	
17F	細田 敏夫	退職	高崎市石原町1729-1	
17F	前田 慎一	府中	支援集団	
17F	松田 清明	桧町	空幕建設2班長	
17F	山本 剛	退職		
17F	磯野 茂樹	三沢	北警団26警司令	
18A	安藤 恒夫	小平	業務学校	
18A	上田 正文	小平	業務学校人教部	
18A	大西 正俊	桧町	陸幕防衛部研究課研究班長	
18A	河野 基春	建軍	西方総監部装備部施設課管轄班長	
18A	川原 彰	旭川	第106警務隊長	
18A	門野 睦廣	桧町	陸幕通信電子課通信器材班	
18A	工藤 重見	大宮	化学学校研究部装備開発科	
18A	首藤 敏明	桧町	陸幕装備部需品課需品班	
18A	紫村 敬二	桧町	陸幕付	
18A	千原 和人	高知	高知地連	
18A	中島 仁文	健軍	健軍業務隊	
18A	麩澤 章雄	札幌	札幌地連本部援護課	
18A	宮田 秀二	高遊原	西部方面航空野整備隊	
18A	渡辺 義幸	桧町	陸幕付	
18N	岩淵 秀樹	桧町	東京業務隊付統幕(一般)学生	
18N	近藤 清司	厚木	第51航空隊	
18N	平原 誠	防大	防大海上防衛学教室教授	
18N	松井 博	厚木	航空集団司令部	
18F	笠原 久	桧町	空幕運用課	
18F	白敷 裕樹	退職	京都市右京区西京極南大入町54-5	
18F	長尾 幸一	府中	支援集団航空管制課長	
18F	勘米良	春日	西空司令部装備部	
19A	青柳 忍	仙台	東北方面総監部総務部	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
19A	迫田直心	前川原	幹部候補生学校	
19A	園部武典	桧町	陸幕調査部調査第2課2班	
19A	津留崎清宝	勝田	施設学校第1教官室	
19A	野村俊朗	三宿	技術研究本部技術開発官第1開発室	
19A	広瀬和紀	小倉	第40普通科連隊第3科長	
19A	東光博	退職	浦安市弁天2-17-12	
19A	古庄和裕	富士	富士学校特科部研究科	
19A	前之園敏雄	朝霞	東部方面總監部人事部	
19A	三星俊正	仙台	東北方調査隊仙台派遣隊長	
19A	屋久俊郎	習志野	第1空挺団本部	
19A	横島秋男	東立川	中央地理隊	
19N	松山守秀	桧町	海幕防衛課	
19F	磯光三	入間	第4補給所	
19F	小曲一之	目黒	幹部学校	
19F	郷田進	白山	4高群14高射隊長	
19F	後藤章	退職	春日市若葉台西3-40	
19F	杉山昌宏	退職		
19F	園山栄一	退職	北九州市門司東1-1-20-10	
19F	田中秀明	桧町	施設庁	
19F	藤井和弥	市ヶ谷	補給本部	
19F	松下睦裕		空幕整備部	
19F	吉本博	府中	支援集団	
20A	浅原昭夫	明野	航空学校	
20A	楠本裕幸	桧町	統幕事務局第3幕僚室	
20A	小林実	富士	装備開発実験隊	
20A	榊喜隆	真駒内	第11通信大隊長	
20A	高岡正明	健軍	九州地区補給処健軍支処	
20A	仲原久晃	練馬	第1後方支援連隊武器隊長	
20A	半澤康司	東千歳	第7師団2部長	
20A	馬場崎修	退職		
20A	伏木享	富士	第308武器野整備中隊	
20A	山形克己	仙台	東北方總監部人事部第1班長	
20N	木村孝彦	岩国	第31航空群幕僚	
20F	石田裕	府中	支援集団	
20F	岸本昌文	築城	8空団	
20F	高林久	浜松	1空団	
20F	岳川清美	千歳	北警団8移警隊長	
20F	南園宏	桧町	空幕副監察官	
20F	田中和之	三沢	北警団	
21A	大谷昭次郎	今津	第10戦車大隊長	
21A	加藤隆	具知安	第29普通科連隊第3科長	
21A	貴志倫生	伊丹	第310基地通信中隊長	
21A	桑原幹夫	桧町	陸幕監理部	
21A	湖崎隆	桧町	陸幕付	
21A	澤井研次	美幌	第6普通科連隊第3科長	
21A	園田郁夫	習志野	第1空挺団 特科大隊長	
21A	高橋久奏	秋田	秋田地方連絡部	
21A	野中敏治	宇都宮	宇都宮業務隊総務科	
21A	花田一志	仙台	東北方調査隊	
21A	浜崎勝	松戸	需品学校	
21A	渡部誠	三宿	技術研究本部	
21N	城山宏	退職		
21N	福岡誠	船越	潜水艦隊司令部	
21N	村田隆齐	佐世保	護衛艦「きりしま」砲雷長	
21N	山口次郎	小松島	小松島航空隊	
21F	木山幸保	岐阜	2補	
21F	黒沢豊彦	浜松	1術校	
21F	真田雅章	桧町	空幕通電課	
21F	朱永武	留学生	シンガポール在住	
21F	杉本弥行	芦屋	3術校	
21F	鍋島和史	退職		
21F	沼田幸男	入間	2輸送隊	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
21F	平本 行	三沢	北空	
21F	廣江 勝馬	桧町	空幕厚生課	
21F	松本 修司	入間	中警団	
21F	田原 俊幸	桧町	空幕防衛部防衛課	
22A	大本 建吾	東立川	中央地理隊	
22A	財城 昭彦	防大	第1大隊首席指導教官	
22A	島松 正一	飯塚	第2高射特科団本部	
22A	永柴 文晴	桧町	中方管気隊長	
22A	野口 利保	東千歳	第7偵察隊長	
22A	原田 有繁	札幌	北方監察官付	
22A	松本 俊二	札幌	北部方面總監部防衛部	
22A	松村 利宏	桧町	陸幕防衛部防衛課	
22A	吉岡 聖二	桧町	陸幕防衛部研究課研究班	
22N	高塚 裕幸	船越	練習艦隊幕僚	
22N	塚田 真司	桧町	海幕教育課	
22N	中谷 茂	横須賀	第13掃海隊 司令	
22N	延近 保生	桧町	海幕	
22N	坊垣内 広明	新井	運用開発隊	
22F	木戸 文夫	入間	空救団	
22F	小関 信宏	桧町	空幕防衛部	
22F	酒井 伸	春日	西空	
22F	堂込 勝也	桧町	空幕教育課	
22F	永瀧 盛重	桧町	空幕通電課	
22F	野村 勝廣	新田原	5空団	
22F	横手 裕明	千歳	千歳管制隊長	
23A	奥野 和男	桧町	陸幕装備部輸送課	
23A	谷崎 敏広	帯広	帯広地連	
23A	廣塚 雅史	朝霞	東部方面總監部防衛部	
23A	日高 政広	桧町	陸幕防衛部運用課運用1班	
23A	丸山 和宏	旭川	2師団3部	
23A	三木 元秀	千僧	第3通信大隊	
23A	若杉 治徳	真駒内	第11師団総務課	
23A	岩田 清文	桧町	陸幕防衛部	
23A	浦川 平次	久居	第33普通科連隊	
23N	井之久保 雄三	桧町	海幕装備部	
23N	井口 義定	下総	第3術科学校	
23N	数野 謙一	舞鶴	練習艦「かしま」機関長	
23N	畑中 孝行	舞鶴	第3護衛隊群	
23N	山下 啓治	桧町	桧町業務隊付(筑波大研修)	
23N	四元 和生	船越	潜水艦隊司令部幕僚	
23F	池邊 正	桧町	空幕防衛課	
23F	馬谷 誠二	退職	東大阪市日下町3-1-5-319	
23F	川添 一正	退職		
23F	シンナロン	留学生	タイ王国在住	
23F	松尾 茂	桧町	空幕技1課	
23F	宮田 義章	那覇	南混団	
24A	浅野 博義	桧町	陸幕防衛部	
24A	稲葉 貞志	桧町	陸幕装備部航空機課総括班	
24A	太田 尚志	桧町	中央資料隊付	
24A	大久保 和美	朝霞	東部方面總監部防衛部	
24A	金田 辰美	横浜	調達実施本部	
24A	芹川 慎介	市ヶ谷	中央調査隊	
24A	高澤 慎司	退職	(株)東京アイシーエス	
24A	常田 義則	退職	小田原市千代475-1	
24A	中村 健蔵	目黒	幹部学校	
24A	西津 護	広島	広島地連	
24A	瀧 靖隆	桧町	陸幕調査部第1課	
24A	堀之内 誠	桧町	陸幕調査部第2課	
24A	山田 雅巳	桧町	陸幕調査部第1課	
24A	山川 純次	桧町	陸幕装備部開発課総括班	
24N	小川 勝志	横須賀	潜水艦「ふゆしお」副長	
24N	佐伯 泰啓	船越	プログラム隊付	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
24N	中村 早速	横須賀長浦	第4護衛隊群第43護衛隊「いそゆき」	
24N	長谷川 隆	退職		
24N	松田 俊宏			
24N	山本 浩	退職	北九州市小倉南区湯川3-8-16	
24F	佐藤 秀幸	松町	空幕運用課	
24F	清水 尚志	市ヶ谷	補給本部	
24F	出口 潔	松町	空幕会計課	
24F	中館 利光	千歳	2空団	
24F	藤城 希恭	浜松	教育集団	
24F	山田 真一	新田原	5空団	
25A	石川 哲也	松町	松町業務隊付	
25A	大内 元	三宿	技術研究本部	
25A	岡元 正一	富士	富士学校特科部	
25A	小野寺 靖	松町	陸幕教育訓練部	
25A	小菅 康雄	松町	会計監査隊本部	
25A	佐伯 義次	弘前	第39普通科連隊	
25A	重石 喜幸	松町	陸幕防衛部運用課運用1班	
25A	田草川 茂人	松町	陸幕人事部	
25A	若本 順二	岡山	岡山地連	
25N	内山 哲也	松町	海幕総務課兼長官官房秘書課	
25N	籠谷 貴年	横須賀	横須賀地方総監部人事部人事課	
25N	河村 正雄	松町	海幕人事部	
25N	杉原 耕二	松町	海幕防衛部防衛課防衛班	
25N	高島 修	防医大	防衛医大訓練課	
25F	安芸 一	松町	空幕防衛課	
25F	尾崎 信朗	防大	第4大隊次席指導教官	
25F	坂本 卓己	松町	空幕装備部	
25F	藤吉 恵一	松町	空幕補給課	
26A	石川 毅	板妻	第34普通科連隊	
26A	内海 浩	松町	陸幕装備部開発課開発2班	
26A	小野 長門	退職	熊本(熊本工大)	
26A	及川 幸夫	高田	第2普通科連隊第2中隊長	
26A	金子 寿弥	松町	陸幕装備部	
26A	坂野 佳彦	京都	京都地連	
26A	谷 俊彦	留萌	第26普通科連隊	
26A	滝沢 由則	退職	札幌市中央区南12西16 滝沢由子方	
26A	友部 隆	俱知安	第29普通科連隊第1中隊長	
26A	中村 明弘	退職	横浜市緑区長津佐3-27-14	
26A	河原 敏和			
26A	松田 正行	富士	富士学校機甲科部	
26A	山下 清隆	静内	第7高射連隊	
26A	吉田 英紀	前川原	幹候校	
26A	吉田 吉宏	古河	施設補給処	
26A	石山 暁	松本	第13普通科連隊	
26N	市坪 秀明	大村	22航空群123空	
26N	上野 真一郎	館山	21航空群121空	
26N	佐藤 寿紀	大村	大村航空基地隊付幹部(専攻科)学生	
26N	杉山 義和	横須賀	第22掃海隊「まえじま」艇長	
26N	道満 誠一	松町	海幕経理課	
26N	平野 勝	舞鶴	舞鶴地方総監部 防衛部1室長	
26N	水野 伸彦	松町	海幕援護業務課	
26N	相良 達也	下総	205教育航空隊	
26F	池島 暢也	百里	7空団	
26F	澤木 優輔	退職		
26F	福島 睦	松町	空幕防衛部防衛課	
26F	星川 敦	新田原	飛教隊整備隊	
26F	米子 誠二	松町	空幕装備部調達課	
27A	大石 隆一	退職		
27A	大場 基美雄	八戸	第38普通科連隊第3中隊	
27A	緒方 禎浩	退職		
27A	大居 一之治	松町	陸幕装備部武器化学課弾薬班	
27A	川村 治彦	退職	〒305 筑波市東2-10-2-201	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
27A	行事 正	下志津	高射学校研第1研究室	
27A	角南 良児	名寄	第3普通科連隊第3中隊	
27A	長合 友造	桧町	陸幕人計企画班	
27A	津田 浩司	富士	富士学校特科部訓練評価室	
27A	濱田 秀	小倉	第40普通科連隊第1中隊	
27A	馬場 政和	退職		
27A	舞原 博己	帯広	第5通信大隊S3	
27A	山之上 哲郎	習志野	第1空挺団普通科群第3中隊	
27A	米山 多佳志	都城	第43普通科連隊第2中隊	
27N	小川 昌宏	舞鶴	舞鶴総監部防衛部	
27N	五領 隆男	防大	第21中隊次席指導教官	
27N	交口 俊介	京都	京都地連舞鶴募集事務所	
27N	中里 巧	退職	横須賀市鴨居2-69-4 (中島機械)	
27N	益田 徹也	目黒	幹部学校CS学生	
27N	山田 洋士	鹿屋	第7航空隊	
27F	足立 謹聡	秋田	航空救難隊	
27F	兼古 修	新田原	5空団202飛行隊	
27F	甲斐 新太	三沢	警戒航空隊装備班長	
27F	蔵田 衛人	退職		
27F	沢村 徹	退職	町田市忠住3-14-3tジュール厩II-201	
27F	高野 宗治	千歳	特別輸送航空隊	
27F	西山 利昭	退職	長野県	
27F	堀田 隆治	岐阜	空幕装備部装備課	
27F	元木 啓嗣	目黒	幹部学校付 会社研修 (博報堂)	
28A	畦地 勇	退職	東京都小平市学園西町2-10-17-203	
28A	足立 哲彦	富士	装備開発実験隊ロケット弾薬課	
28A	岡沢 武彦	相模原	技術研究本部4研	
28A	北原 秀章	桧町	企業研修 電通	
28A	幸野 英明	富士	富士学校総研2室	
28A	古賀 敏明	旭川	第2特科連隊第1大隊	
28A	永井 大介	退職		
28A	日高 信行	富士	富士学校 i FOC学生	
28A	藤原 修	北恵庭	第1戦車群303中隊長	
28A	三好 邦夫	富士	特科部観測班	
28A	矢野 光宏	桧町	陸幕 企業研修 三菱総研	
28A	湯浅 悟郎	新発田	第30普通科連隊 第3中隊長	
28A	越水 達哉	退職		
28A	吉田 正己	退職		
28N	鈴木 巧	退職	栃木県宇都宮市緑4-1550-84	
28N	竹本 直忠	船越	第1輸送隊	
28N	西小路 謙	退職	奈良市生駒郡三郷町2-12-2 三郷コ-プ 304	
28N	内田 公明	玉野	調本大阪支部 (玉野)	
28N	河津 稔	舞鶴	舞鶴地方総監部 経理部契約係	
28N	平島 一	退職		
28N	鶴見 耕市	退職	茨城県取手市青柳354-2キャッスル軒105	
28N	中川 勝也	退職	愛知県西加茂郡藤岡町大字石畳242-46	
28N	米田 健二	退職	東京都多摩市関戸2-40-3 1104	
28F	今井 邦夫	市ヶ谷	補給本部第3補給課	
28F	神山 隆	退職		
28F	白水 裕人	三沢	北防群群本部運用班長	
28F	末広 勝己	岐阜	飛行開発実験団飛行隊	
28F	山田 顕嗣	防大	第31中隊次席指導教官	
29A	青柳 光	退職	山梨県中巨摩郡昭和町上河東543-1-30	
29A	浅川 玉樹	退職	神奈川県川崎市宮前区鷺沼1-18-16-20	
29A	蛭原 良雄	土浦	武器学校教育部火器科	
29A	大川 浩史	習志野	第1空挺団普通科群第4中隊	
29A	甲斐 正人	目黒	幹部学校 #40 CGS	
29A	川上 和美	退職	不明	
29A	駒井 紀美彦	普通寺	第2混成団第3科	
29A	坂井 辰也	仙台	東北方面通信群本部3科	
29A	新保 徳	吉井	武器補給処吉井弾薬支所	
29A	鈴木 総一郎	逝去		

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
29A	託摩 安広	退職	北海道札幌市北区北22条西4丁目2-25	
29A	立林 剛	下志津	高射学校研究部第1研究室	
29A	谷 拓弥	目黒	幹部学校 #40 CGS	
29A	津田 芳明	札幌	北部方面通信群第102通信運用大隊	
29A	中村 浩之	目黒	幹部学校 #41 CGS	
29A	古川 靖人	武山	少年工科学学校第1教育隊	期担当
29A	古田 清悟	那覇	沖縄地連募集課広報班長	
29A	水上 義仁	朝霞	調査部別室(企業研修)	
29N	柏木 均	横須賀	潜水艦「おきしお」水雷長	
29N	小屋敷 秀彦	退職	群馬県勢多郡宮城村大字柏倉3693-3	
29N	佐竹 右幾	退職	石川県七尾市白馬町7部10-1	
29N	山崎 浩一	横須賀	第1護衛隊群司令部	
29F	熊田原 修	市ヶ谷	補給本部第2整備課	
29F	高松 実	桧町	空幕防衛部運用課	
29F	西村 政恭	那覇	南西航空混成団司令部運用課	
30A	池永 博和	桧町	桧町業務隊付	
30A	岩熊 真司	東千歳	第7師団司令部第4部	
30A	魚躬 治晴	退職	東京都板橋区高島平2-33-7-818	
30A	魚住 晴康	朝霞	東部方面総監部 防衛部	
30A	亀山 淳	守山	第35普通科連隊	
30A	笠島 広文	退職	〒916 鯖江市水落町1丁目4-23	
30A	菅野 俊夫	久里浜	通信学校	
30A	土屋 甲吉	目黒	幹部学校 #40 CGS	
30A	中井 馨	退職	甲賀郡石部町金ヶ町865	
30A	中村 大助	防大	第431小隊指導教官	
30A	中川 洋行	三宿	技術研究本部 航空付	
30A	中森 雅美	目黒	幹部学校 #40 CGS	
30A	西 良典	富士	富士学校 普通科部	
30A	林 宏幸	座間	第3施設群	
30A	福田 洋司	土浦	武器学校研究部	
30A	船津 達男	退職	〒822-11福岡県田川郡赤池町高尾通	
30A	松岡 恭一	退職	〒277 千葉県柏市日立台1-1-2-306	
30A	宮本 善弘	健軍	航空学校	
30A	矢納 祐二	目黒	幹部学校 #40 CGS	
30A	山口 芳正	遠軽	装備開発実験隊隊	
30N	鈴木 達雄	退職	〒854 長崎県諫早市東小路町805	
30N	時久 寛司	桧町	海幕運用課	
30N	百崎 邦彦	厚木	プログラム業務隊	
30N	湯浅 秀樹	船越	第1術科学学校付	
30F	栗田 尚幸	殉職		
30F	黒田 健一	退職	〒673-02兵庫県神戸市西区山崎3-45-29	
30F	後藤 豊	退職	〒544 大阪府大阪市生野区副都1-21-19	
30F	高橋 親敏	府中	支援団司令部装備部	
30F	西本 彰雄	三沢	北警団	
30F	橋爪 猛	市ヶ谷	補給本部4部第4整備課	
30F	吉田 憲司	市ヶ谷	補給本部3部第3補給課	
31A	石丸 威司	目黒	幹部学校 #41 CGS	
31A	池ノ本 八郎	富士	装備開発実験隊車両装輪班	
31A	大島 龍一郎	退職	堺市上野芝町8-1-4	
31A	亀山 慎二	目黒	幹部学校 #41 CGS	
31A	久保 敏浩	今津	第3戦車大隊	
31A	佐野 光	霞目	東北方ヘリ隊	
31A	椎野 健治	木更津	第4対戦車ヘリコプター隊	
31A	田口 直志	土浦	武器学校	
31A	辰巳 竜悟	退職	兵庫県加古川市八幡町野村487-3	
31A	辻 政幸	真駒内	第11高射特科大隊	
31A	中川 博英	松戸	需品学校	
31A	橋本 哲彰	明野	航空学校	
31A	久富 博幸	退職	長崎県西彼杵群長与町三根郷55-30	
31A	藤岡 登志樹	富士	装備開発実験隊	
31A	松井 健一	富士	装備開発実験隊	
31A	吉武 辰明	朝霞	輸送学校	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
31N	蝦名 伸治	横須賀	輸送艦「みうら」航海長	
31N	岡田 岳司	江田島	第1術科学校付	
31N	大井 一史	江田島	第1術科学校付	
31N	甲斐 義博	佐世保	第2護衛隊群司令部	
31N	久保田 修一	大湊	第35護衛隊	
31N	迫田 浩文	江田島	第1術科学校付	
31F	阿部 博文	府中	航空気象群	
31F	北村 克晶	浜松	第2術科学校	
31F	小南 良人	殉職		
31F	近藤 良彦	浜松	1航団	
31F	渋沢 寛	防府北	12飛教団	
31F	野沢 隆一	千歳	第2航空団第203飛行隊	
32A	市来 道啓	板妻	第34普通科連隊	
32A	大塚 裕治	小平	業務学校	
32A	大塚 和也	下志津	高射学校	
32A	小原 真二	退職	航空大学校 宮崎市赤江宇飛江田学生寮	
32A	小田 益男	富士	特科教導隊	
32A	上山 聡	海田市	第13師団司令部3部	
32A	川崎 誠二	目黒	幹部学校 CGS	
32A	境 孝明	富士	富士学校普通科部	
32A	更工 雅彦	退職	奈良県橿原市和田町32-4	
32A	神保 俊昭	退職	和歌山県東牟婁郡古座町中湊531	
32A	田口 芳郎	退職	三鷹市牟礼5-2-17-105	
32A	竹内 利治	伊丹	中部方面總監部防衛部	
32A	中村 裕亮	目黒	幹部学校 CGS	
32A	平田 雄嗣	えびの	第24普通科連隊本管中隊	
32A	福元 昌二	旭川	第2特科連隊第2大隊	
32A	福重 毅尚	富士	戦車教導連隊	
32A	山地 伸一	桧町	中央資料隊	
32N	河上 康博	佐世保	第2護衛隊群第47護衛隊あさぎり	
32N	後藤 幸英	退職		
32N	澤本 武朝			
32N	松尾 研志			
32F	植村 茂己	市ヶ谷	補給本部2部システム管理課	
32F	鈴木 憲	浜松	第2術科学校第1科	
32F	高橋 秀雄	入間	中部航空警戒管制団	
32F	山口 直人	百里	航空救難団	
32F	渡部 誠	岐阜	飛行開発実験団	
33A	池田 誠喜	練馬	第1師団司令部4部	
33A	大津 勝利	富士	特科教導隊本部	
33A	柿野 忠嗣	海田市	第13後方支援連隊3科	
33A	川崎 英幸	退職	広島県西区古江西町22-16ビィヲ高精2401	
33A	近藤 哲也	東千歳	第7特科連隊2大隊	
33A	郡山 直樹	湯布院	第3特科群112大隊	
33A	椎葉 博正	退職	東京都荒川区西駒 3-25-16ロイヤルグリン502	
33A	谷口 喜一郎	留萌	第26普通科連隊	
33A	富樫 勇一	滝ヶ原	普通科教導連隊4中隊	
33A	中塚 修一	東千歳	第11普通科連隊	
33A	半澤 新吾	退職		
33A	久永 智	退職	アメリカンファミリー	
33A	細野 容司	遠軽	第25普通科連隊	
33A	山本 真也	善通寺	第8施設群第319施設中隊	
33A	山本 裕一	退職	札幌市南区澄川1条4丁目6-14東コーポ107	
33N	山本 鶴澤	退職		
33N	関口 雄輝	桧町	海幕監理部総務課渉外班	
33N	高橋 真一			
33N	西窪 純	退職	横浜市芝区笠間1232-2-203	
33N	町島 敏幸	那覇	第5航空群第5航空隊	
33N	渡辺 浩	大湊	第23護衛隊	
33F	新崎 秀樹	小松	第6航空団306飛行隊	
33F	岡本 秀文	桧町	中央業務隊付 日本航空研修	
33F	田中 勝也	退職	(株)兼松	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
33F	荒木 俊一	那覇	南西航空警戒管制隊	
33F	高草木 浩寿	松島	第4航空団飛行群	
33F	増田 友晴	築城	第8航空団飛行群	
33F	御廚 広之	浜松	教導高射隊第2教導隊	
34A	石黒 太美英	神町	第6飛行隊	
34A	篠原 康一	土浦	武器教導隊2中隊	
34A	田中 一要	北千歳	第71戦車連隊	
34A	田丸 正勝	松本	第13普通科連隊	
34A	筒井 鋭達	都城	第43普通科連隊	
34A	能井 智治	上富良野	第304武器野整備中隊補給小隊長	
34A	松永 康則	防大	第121小隊指導教官	
34A	平林 理	真駒内	第11戦車大隊	
34A	氷室 正一郎	退職	東陶機器松が丘	
34A	竹内 博忠	防大	研究科	
34N	富山 修	横須賀	横須賀地方総監部総務課	
34N	丹羽 満良	鹿屋	第1航空隊	
34F	羽田 充伸	木更津	第1補給処資材計画課	
34F	小笠原 卓人	奈良	幹部候補生学校	
34F	河田 成治	退職	埼玉県上福岡市上福岡3-4-12 ビリ岬106	
34F	田代 秀也	与座岳	第56警戒群本部運用班	
35A	安藤 和幸	霞目	東北方面航空隊	
35A	戒田 重雄	習志野	第1空挺団空挺教育隊	
35A	川嶋 和之	北宇都宮	第12飛行隊	
35A	木場 元大	伊丹	第36普通科連隊	
35A	坂本 雄一	名寄	第3普通科連隊	
35A	瀬戸口 淳	八戸	第5高射特科群	
35A	中村 健太郎	高田	第2普通科連隊	
35A	中本 尚明	市ヶ谷	第32普通科連隊	
35A	福本 博氏	山口	第17普通科連隊	
35A	馬淵 貴史	福島	第11施設群	
35A	袖之原 公郎	目達原	第4飛行隊	
35N	加藤 寛和	横須賀	第33護衛隊「てしお」	
35N	中原 俊行	佐世保	護衛艦「きりしま」	
35N	三浦 則文	呉	第37護衛隊 護衛艦「あやせ」	
35N	森泉 周	館山	第21航空群	
35F	中澤 武志	浜松	浜松救難隊	
35F	堀 修二郎	百里	第204飛行隊	
36A	井上 勝	防大	研究科	
36A	岩村 伝法	退職		
36A	榎窪 正和	青野原	第8高射特科群	
36A	大北 知史	駒門	第1戦車大隊	
36A	倉田 一	小平	調査学校付	
36A	中村 英昭	名寄	第3普通科連隊	
36A	日高 邦登	北熊本	第8特科連隊	
36A	福島 浩二	美幌	第1特科群	
36A	藤岡 史生	真駒内	第3教育連隊302中隊	
36A	前田 尚男	検町	検町業務隊付米国留学	
36A	村上 至	真駒内	北部方面輸送隊	
36A	山田 武彦	金沢	第336会計隊	
36N	鳥越 要	横須賀	第46護衛隊 護衛艦「あまぎり」	
36F	綿森 昭示	饗庭野	第12高射隊	
37A	大山 剛	駒門	第1高射特科大隊	
37A	河合 寿士	目達原	西部方面武器隊	
37A	児玉 洋	伊丹	第36普通科連隊	
37A	富原 大治	日本原	第13戦車大隊	
37A	平瀬 慎	古河	第1施設大隊	
37A	古田 和之	旭川	第2後方支援連隊	
37A	森安 宏徳	松本	第13普通科連隊	
37A	山下 豊	滝川	第10普通科連隊	
37A	吉田 文二	北恵庭	第72戦車連隊	
37N	石原 寿英	退職		
37N	岩本 正行	下総	201支援整備隊検査隊	

期別	氏名	基地等	所属部隊等	備考
37N	木下 治信	大湊	第23護衛隊「あきぐも」	
37N	鈴木 隆弘	横須賀	第46護衛隊「あまぎり」	
37N	高取 哲郎	徳島	202教育飛行隊	
37F	久重路 剛	百里	基地業務群施設隊	
37F	塚原 敏夫	知念	5高群18高射隊	
37F	中居 景	桧町	中央業務隊付 米国留学	
37F	矢坂 勝良	松島	教育集団司令部付	
38A	水野 亮二	北熊本	第8後方支援連隊武器隊	
38A	奇藤 浩	神町	第20普通科連隊	
38A	宮下 克聡	旭川	第2特科連隊第3大隊	
38A	黒子 智彰	丘珠	北部方面航空隊	
38A	尼子 将之	勝田	施設教導隊	
38A	高岡 徳人	伊丹	第36普通科連隊3中隊	
38N	高橋 俊隆	小月	小月教育航空群	
38N	中村 格	佐世保	第2護衛隊「もちづき」	
38N	城戸 利彰	小月	小月教育航空群	
38N	佐藤 滝大	小月	小月教育航空群	
38N	平井 穰治	退職		
38F	向井 洋史	築城	第8航空団	
39A	井上 嘉史	えびの	第24普通科連隊	
39A	井上 裕策	弘前	第39普通科連隊	
39A	遠藤 英隆	丘珠	第7飛行隊	
39A	小澤 謙雄	岩手	第9特科連隊	
39A	杉原 正典	東千歳	第11普通科連隊	
39A	達下 裕教	新発田	第30普通科連隊	
39A	中村 公多郎	八戸	第9後方支援連隊	
39A	長濱 誠			
39A	西田 美嗣	旭川	第2後方支援連隊	
39A	野本 肇	北千歳	第1地对艦ミサイル連隊	
39A	三好 英治	立川	東部方面航空隊	
39N	大松 清生	江田島	海幹候校	
39N	鳥越 涉	江田島	海幹候校	
39N	松崎 徹	江田島	海幹候校	
39F	大塚 晋介	高良台	第2高射群	
39F	久保 敦	浜松	教育集団司令部付	
39F	前床 泰彦	浜松	教育集団司令部付	

合掌

新春の候、OBの皆様におかれましてはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。また日頃から貴重な時間を割いてのご協力・ご支援並びにご指導いただきまして、誠に有り難うございます。

さて、ここに防大少林寺拳法部誌も第22号の発刊を迎え、平成7年度の輝かしい成果をご報告することができ、大きな慶びとするところであります。これも諸先輩方のご協力及び41期主将以下の指導の賜物と感謝しております。

我が部も創部30周年という大きな節目を越え、初めて女子部員が入部するなど我々も戸惑うこともあります。諸先輩方の築き上げられた伝統と防大少林寺拳法部員としての誇りを受け継ぎ、日々修行に励む次第であります。

今後とも現状に甘えることなく、防衛大学校少林寺拳法部の名を知らしめるべくたゆまぬ努力を続けていきますので、OBの各位におかれましては、何かとご多忙中とは存じますが、変わらぬご指導、ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

最後に、本部誌発行にあたり、ご指導下さった部長、監督、顧問の方々をはじめ、投稿してくれた各学生に感謝して、編集後記と致します。

結手

平成7年度 OB係

